

■この世界に入るきっかけは、
私の師匠福団治でしたね
大学生の時に福団治師匠に入門
した福樂君（当時小福）から、師
匠がサンケイホールで独演会をさ
れるというで頼まれてスタッフ
になりました。昭和55年でした
ね。それから師匠が事務所にして
いた「芸能楽しむ会」に出
入りするようになつたんで
す。師匠の独演会の打ち合
せや、その会の受付な
んかをしてました。ここでは
色々なジャンルの会があり
ました。たくさんの芸人さ
んと知り合いになれたこと
がその後に活きています。

お悩み

桂福楽の人生相談

令和5年3月26日 楽屋風景プラス 西明石浪漫笑 第350回記念 「花菱の会」西明石出張公演

花團治さん、梅団治さん、私、春雨さん、三味線の中田まなみさん 平成2年から開催されている会の記念公演です。定例会より大きな会場の西明石公民館にたく

7月17日(祝)、天満天神繁昌亭朝席、10時15分開演です。

回答

子供の頃から胃腸が弱く、空腹感というものがありません。時分どきにはお腹が空かなくても食べます。が、確実に瘦せてしまいます。たいてい時に食べたい量だけ摂つていい感じです。

桂福楽の人生相談 私はあなたと知り合つて四十年ほどになりますから大抵のことは知つるつもりでしたが、空腹感が無いというのには驚きました。

小さい時から胃腸が弱く痩せていたのなら、周りの大人が「もつと食べなさい」「食べないとダメよ」と言われて、食べられないことがコンプレックスになつてゐるのはないですか。お腹が空かなくても体力の維持や健康のために食べることは大事です。大食漢はよく「燃費が悪い」などと揶揄されますがあなたは

（大阪市中央区 落語家 桂春雨）

その逆で、「省エネ」。そこで私が思つたのは、宇宙飛行士の食生活です。最小限に近い量に必要な栄養を備えた上に、今は食べる楽しさが味わえるように風味やバリエーションが工夫がされてい

るそうです。別に宇宙食を勧めるのと違います。たくさん食べなくとも、しつかり栄養を摂ること、や栄養管理はスマホの無料アプリでもできるみたいで。痩せないよう頑張つてください。私は

2009年の夏に右足の骨折から双極性障害（躁うつ病）が悪化して、入院療養をきっかけに休業することになつたんです。なんと2年4ヶ月もの間です。その間、人前ではいつも落語をしてません。長い長い休みの後、どこで「初舞台」が踏めんやろと思つました。

一番初めに声をかけてくれたんは桂梅団治さんでした。「西明石浪漫笑」の定例会で、大変ありがたかつたんで、色んな人に会つて、色々な企画をしていました。それで「初舞台」が踏めんやろと思つました。落語がやれるやろかと自分で思つて、とにかくなつてきました。それと学校寄宿で全国各地を廻っています。

落語会や演芸会などを催しの企画や制作、開催するのが主な仕事です。落語会や演芸会などを催すのが三栄企画といふ会社がある」と言われて師匠にお手紙を書いていただき三栄

4月代表取締役就任。同6月有限会社ループは現在休眠中。

三栄企画は↓こちらから

【長澤さん】この人は学生の頃から「言い間違い」と「聞き間違い」の多い人でした。例えば、テレビの時代劇「江戸の魔」を「鷺の爪」、「ペーベルース」を「ルーズベルト大統領」、「ビックカメラ」を「ジャンボメガネ」など、「オムライス」を「小倉アイス」と聞き違えたことは芸術家として伝説となっております。こういったおとぼけぶりが温厚なお人柄と相まって、多くの芸人から愛されているのです。（福樂）

撮影場所：てんしば

2回目の舞台は笑福亭伯枝さんからの仕事でした。「和泉ワニコイン寄席」です。この時は落語を演りました。根多は、「代書」私の持ち根多の中で一番多く高座にかける落語と

思ひます。これやつたらなとか出来るやろと思って舞台に上がりました。間違ったけど、降りてから唖然としたんです。ごつつい長いこと喋つてたんですね。25分ほどの噺をなんと45分もかかつとつたんです。これも不思議です。なんでこんな長なつたか。間あを取り過ぎたんですね。ええ舞台や無かつたと思います。又もや反省ですよ。

復帰後の「初舞台」はどうなりました。どちらの高座かわからんので、落語やなしに漫談なんかで思つてます。それができる人ですか？」と聞いていただきます。

※次号は「人形浄瑠璃文楽座」人形遣いの豊松清十郎さんに登場していただきます。

【長澤さん】この人は学生の頃から「言い間違い」と「聞き間違い」の多い人でした。例えば、テレビの時代劇「江戸の魔」を「鷺の爪」、「ペーベルース」を「ルーズベルト大統領」、「ビックカメラ」を「ジャンボメガネ」など、「オムライス」を「小倉アイス」と聞き違えたことは芸術家として伝説となっております。こういったおとぼけぶりが温厚なお人柄と相まって、多くの芸人から愛されているのです。（福樂）

2回目の舞台は笑福亭伯枝さんからの仕事でした。「和泉ワニコイン寄席」です。この時は落語を演りました。根多は、「代書」私の持ち根多の中で一番多く高座にかける落語と

思ひます。これやつたらなとか出来るやろと思って舞台に上がりました。間違

うございました。

2011年の暮れに復帰したあと、動楽亭で「福樂の底力」を再開したのは2013年6月21日で、今年の6月21日にちょうど10年になります。そこで――

■この世界に入るきっかけは、
私の師匠福団治でしたね
大学生の時に福団治師匠に入門
した福樂君（当時小福）から、師
匠がサンケイホールで独演会をさ
れるというで頼まれてスタッフ
になりました。昭和55年でした
ね。それから師匠が事務所にして
いた「芸能楽しむ会」に出
入りするようになつたんで
す。師匠の独演会の打ち合
せや、その会の受付な
んかをしてました。ここでは
色々なジャンルの会があり
ました。たくさんの芸人さ
んと知り合いになれたこと
がその後に活けています。

そして三栄企画に

卒業が近づいて福団治師
匠が私をどこか芸能事務
所に就職できないか色々あ
りつてくださつたんですね。
なかなか見つからなかつた
んですよ。するとある日「三
栄企画といふ会社がある」と言
われて

52年の3月に設立して、その後6代目松鶴師匠のマネージャーをしていた奥田さんが加わつたんです。ですから三栄企画の初期は松鶴師匠の個人事務所のような感じで、その後多くの独演会を手がけてきました。それと学校寄宿で全国各地を廻っています。

落語会や演芸会などを催すのが後多くの独演会を手がけてきたんです。ですから三栄企画の初期は松鶴師匠の個人事務所のような感じで、その後多くの独演会を手がけてきました。それと学校寄宿で全国各地を廻っています。

落語会や演芸会などを催すのが後多くの独演会を